

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応えることのできる、創造的で柔軟な学校。</p> <p>児童生徒や保護者にとって、自立と社会参加にむけて楽しく安全で安心して学ぶことができ、教職員のやりがいと誇りがあり、地域から信頼される学校をめざす。</p> <p>(1) 児童生徒の人権を尊重し、保護者とのコミュニケーションを十分に図りながら、個別のニーズに応じた教育(適切な指導及び医療的ケアを含む必要な支援)を行い、才能を引き出すとともに能力を高める。</p> <p>(2) 教員は特別支援教育の専門性を高めるために、常に研修を行い、組織による教育力を高め、健康と安全を基盤とした教育の質を常に向上させる努力をする。</p> <p>(3) 泉州地域における共生社会実現をめざし、特別支援教育のセンター的役割を担うため、地域や関係諸機関等との密接な連携を図る。</p>

2 中期的目標

<p>1 授業力を含む専門性向上の取組み</p> <p>(1) 多様化重度化する児童生徒の課題に対応する専門的知見を導入しつつ、教科指導および自立活動に関する専門性をより一層充実させていく。</p> <p>ア 平成 26 年度学校経営推進費で最新技術を応用した教材教具や I C T 機器を導入し、教育支援のイノベーションを進める。</p> <p>イ 「福祉・医療関係人材の活用事業」等の活用を継続し、各領域・分野で核となる人材の組織的計画的な育成を図る。</p> <p>(2) 教職員の専門性の向上体制の確立</p> <p>ア 指導教諭や経験の豊かな教員による研究授業を積極的に推進する。</p> <p>イ グループ研究の活性化を図り、その成果を積極的に公開する。</p> <p>2 個別の教育支援計画・指導計画の深化による、授業および一人ひとりの児童生徒への支援の充実</p> <p>(1) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の P D C A (計画、実行、評価、改善) サイクルを効果的に進める。</p> <p>ア 支援計画と指導計画活用の充実を図るため内容に見直しを図る。</p> <p>イ 児童生徒の教育や支援に関する情報のポートフォリオ化とセキュリティ対策を学校全体で共有する。</p> <p>(2) 授業改善と教育課程の見直し</p> <p>ア 授業アンケートを有効に活用し授業公開と授業の外部評価を推進し、授業改善に結びつける。</p> <p>イ 小学部段階から発達段階に応じた「生きる力」をつける教育(キャリア教育)を進める。</p> <p>ウ 児童生徒の人権尊重教育、政治的教養を育む教育、読書活動を推進する。</p> <p>(3) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全安心な学校生活を保障するために校内体制の充実を図る。</p> <p>ア 看護師を含む教職員間の連携を深めるとともに、保護者や医療関係機関との連携、緊急時の対応、校内環境等の充実を図る。</p> <p>イ 「認定特定行為業務従事者である教員のフォローアップ研修」を開発する。</p> <p>ウ 定期的に安全点検を行い、緊急時を想定したマニュアルの確認とシミュレーションを実施検証する。</p> <p>3 センター的機能の充実と安心で安全な学校づくり</p> <p>(1) 地域の支援ニーズに応えるため「地域支援室」の充実を図る。</p> <p>ア 地域交流の拠点としての機能充実のため、情報機器などの設置を含めた環境整備を行う。</p> <p>イ P T A と協同した防災避難訓練、子育て座談会を地域に公開する。</p> <p>ウ 地域のリーディングスタッフと連携し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成援助等を含めた地域支援に努める。</p> <p>エ 居住地交流をすべての市町村で推進するため年間計画を作成し、校内体制を確立する。</p> <p>(2) 校務分掌組織の再編強化をすすめる。</p> <p>ア 児童生徒と向き合う時間を確保するため、I C T を活用し、校務の効率化を図る。</p> <p>イ 校務の情報化、生徒情報の管理事務の効率化を図る。</p> <p>(3) 安全衛生委員会の活性化を図る。</p> <p>ア 教職員の健康維持・増進を図る。</p> <p>(4) 情報発信の充実を図る。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 9 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>前年度の比較では教員用のアンケートでは 10P 以上肯定的評価が上昇した項目は「交流及び共同学習」であった。10P 以上評価が低下した項目は「地域支援の人材」であった。保護者用アンケートでは 10P 以上の肯定的評価が上昇した項目は「居住地校交流」「子どもの障がい理解」「子どもの生命・社会ルールの育成」であった。特徴的なことは「わからない」と答えた比率が多い項目が「医療的ケア」「居住地校交流」「キャリア教育」「学校経営計画」であった。</p> <p>これらの結果を分析すると、教員、保護者共に評価が高かった「居住地校交流」は取組みに力をいれた成果が表れた形になった。「わからない」と答えた大部分は居住地校での交流がない高等部の保護者に多かったと思われる。教員については地域支援ができる人材の育成に課題があるという傾向と新しい指導法の取組みと伝達について課題があるのではないかと意見が出た。</p> <p>保護者用のアンケートからうかがえる課題は学校での取組みについて「わからない」と答える割合が高かったことである。学校のホームページや P T A 等を通じて広報に努めている部分があるが、保護者の関心については温度差があった。</p>	<p>【学校経営計画、キャリア教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経営」という言葉や「キャリア教育」などは保護者にとっては馴染みがない。もう少しわかりやすく具体的な取組みで説明することが大事ではないか。 →キャリア教育については懇談会や進路ニュース「やまもも」などで取り上げて説明しているが十分ではないようである。日常に取り組んでいる内容でもあるので、引き続き保護者への理解と啓発を続ける必要がある。 <p>【居住地校交流について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との支援学級で居住地校交流を円滑に進めるヒントや工夫していることは何か? →本校では保護者・教員が付き添って実施しているが、学年が上がるにつれて相手校との温度差が出てくる。方法は岸和田市と共同研究をしている。工夫している点は両校の負担感をなくし、お互いに満足感が残るように連携することではないかと考えている。 <p>【子どもの生命・社会的ルールの育成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急シミュレーションはどのような感じで進んでいるのか? →何回も練習していくと動きが迅速になってきた。改善点は、緊急放送を入れる際に「場所」をはじめにしっかりと強調して伝えることで教職員の動きも速くなってきている。また、各学部で対応が変わらないようにマニュアルを作成した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業力を含む専門性向上の取組	<p>(1) ア・楽スタを活用した指導法の充実とその進捗状況や成果をホームページ等で積極的に情報発信する。 ・楽スタ体験型教育相談の増加</p> <p>イ・授業での使用の拡充を図り、職員向け研修会および実践事例発表をする。</p> <p>(2) 教職員の専門性の向上 ア・指導教諭等による授業研究を積極的に推進する。 イ・経験の少ない教職員への指導と授業力向上と授業改善に向けた取組を行う。 ウ・肢体不自由自立活動研究会事務局 (H27～29)</p>	<p>(1) ア・自立活動部が中心となり、「楽スタ」(重力軽減環境訓練システム)を活用した新しい自立活動について多くの教員の指導を可にする。 ・楽スタ活用方法の拡充を図り、多くの児童生徒に試みる。成果についてはHPで情報発信する。楽スタ体験型教育相談を積極的に推進し、定期指導の受け入れを継続する。 ・最新のクッション (Yogibo) を用いて、寝返りのできない児童生徒のポジショニング指導を行う。そして効果の検証をし、次年度以降、各部へ広める。</p> <p>イ・自立活動部、情報教育部、グループ研究において「タブレット型 PC」を活用して、コミュニケーション指導および教材アプリケーションの活用に取り組み校内外へ発信する。 ・訪問教育では「タブレット型 PC」を活用してコミュニケーション指導、教材アプリケーション、授業の交流等に利用し活用する。</p> <p>(2) ア・研究部を中心に、本校独自に各学部において研究授業・公開授業を積極的に企画し、授業力向上をねらう。紀要の発行 イ・首席・指導教諭が中心となり、初任者全員の研究授業を実施し指導案や個別の指導計画の作成について指導助言を行う。</p> <p>ウ・自立活動部が中心になって肢体不自由自立活動研究会の事務局を担当する。夏期講習会や講演会では最新の知見を導入できるよう企画する。</p>	<p>(1) ア・楽スタの指導ができる教員を 50%以上・楽スタ適応の児童生徒数 60%以上。 ・保護者の肯定率 80%以上 ・楽スタ体験型教育相談の回数を 7 回以上。 ・指導後のアンケートで対象児の使用効果と教員の肯定的評価が 80%以上。</p> <p>イ・泉南地区支援教育研修会で研修を実施し、アンケートにおいて肯定的評価が 80%以上。 ・訪問教育での様々な授業の場面において「タブレット型 PC」を積極的に導入し、訪問教育の充実に活用する。</p> <p>(2) ア・研究授業・公開授業を年間 6 回以上行う。紀要を年度内に発行。 ア・イ 初任者や 2 年目の教員を対象とした研究授業において岸和田版授業観察表を活用し、◎○△の評価の到達度の平均を 70%以上。</p> <p>ウ・夏期講習会、教育講演会の参加人数を其々 240、230 名以上。</p>	<p>(1) ア 指導ができる教員は 60%、楽スタ適応の児童生徒数は 80%、保護者の肯定的評価は 100%であった。楽スタの動画を HP に追加。楽スタ体験型教育相談は 10 件、月に 2 回貝塚市の小学生 1 名を指導した。授業力向上シリーズ No4 に本校の取組みを紹介した。(◎) 最新のクッション (Yogibo) を 32 名の児童生徒に試みた。姿勢がとりやすい、不随意運動の軽減等、効果がみられ教員の使いやすさ満足度 100%であった。また各学部にも導入したいという意見が多数あった。(◎) イ・泉南地区支援教育研修会の参加者は 110 名、アンケート肯定率は 92%であった。また 1 月には校内研修も実施した。(◎) ・タブレット型 PC を活用し、授業風景やメッセージ等のビデオのやりとりを中心に実践を行い、児童生徒間のつながりを深めることができた。また様々なアプリケーションも積極的に導入し児童生徒にあった授業を展開した。(○)</p> <p>(2) ア 学部研究として研究授業・公開授業を併せて 15 回計画・実施した。また、該当学部において研究討議を行い、学部での意識共有を図った。そのいずれにおいても岸和田版授業観察票を活用して授業改善に努めている。紀要は年度末に発行。(○) イ 岸和田版授業観察表を活用した到達度については初任者 3 名の平均は 73%、2 年目以上の 4 名の平均は 82%、全員の平均は 78%であった。(○) ウ 夏期講習会、教育講演会の参加人数は 298、358 名の参加があった。教育講演会については「自閉スペクトラム症児への言語・コミュニケーション支援—会話の中での語用論的な援助—」というテーマであったが、会場の都合上約 166 名が受講できない位盛況であった。(◎)</p>
2 授業力の一人ひとりの児童生徒への支援への充実	<p>(1) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の深化 ア. PDCA サイクルによる支援計画と指導計画の充実を図る。 イ. ポートフォリオの活用</p> <p>(2) 授業改善と教育課程の見直し ア キャリア教育、児童生徒の人権尊重教育、政治的教養を育む教育、読書活動を推進する。 イ 発達段階に応じた「生きる力」をつけるための指導目標等を整理する。 ウ 保護者向けの進路情報を発信する。</p> <p>(3) 緊急時を想定したマニュアルの確認とシミュレーションを実施検証する。</p>	<p>(1) ア 教務部が中心となり、課題反省会議の成果を次期暫定支援内容とするなど「個別の指導計画」の評価が次の「個別の指導計画」へ速やかに生かされるよう実施。 イ 児童生徒に関する情報のポートフォリオを学部間連携に活かしていく。</p> <p>(2) ア 教務部が中心となり、小学部から高等部までの一貫したキャリア教育、人権尊重教育、政治的教養を育む教育、読書活動を教育課程の中で具現化する。 イ 進路指導部を中心に教務部関係部署が連携し、小中高各部のキャリア教育について内容や目標等について整理し、個別の指導計画、教育支援計画に記載する。 ウ 進路について保護者向け講演会と広報誌にキャリア教育コーナーを設ける。</p> <p>(3) 保健部が中心となり看護師を含む教職員間の連携を深めるとともに、保護者や医療関係機関との連携、校内環境等の充実を図り、緊急対応シミュレーション実施マニュアルを実施検証する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「7、個別の教育支援計画を項目において肯定的評価が 85%以上。 イ・28 年度中に学部間連携についてポートフォリオの利用を 3 回以上。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「学校はキャリア教育の推進ができていく」の肯定評価を教員 75%保護者 75%以上。 イ・キャリアマトリックスを作り上げる。 ウ 講演会は 1 回以上行う。広報誌については 3 回以上掲載する。</p> <p>(3) 1 学期までに暫定版のマニュアルを作成し、シミュレーションを実施する中で課題の検討を行う。マニュアルについて年度内に完成させる。</p>	<p>(1) ア. 学校教育自己診断「個別の教育支援計画に基づく適切な支援」の肯定的評価は 86%。 イ. ポートフォリオの利用は教員に定着しつつある。年度替わりにポートフォリオの情報を 2 回以上活用し、その後は指導計画立案時や指導方法を検討する際等で、活用する教員が増えてきている。(○)</p> <p>(2) ア. 教員は昨年度 72%から 73%に上がったが評価指数にはいたらなかった。保護者の肯定評価も昨年の回収数(肯定評価数)と同じ回収数であった。評価指数にはいたらなかった。「わからない」という回答が増えてしまった。(△) イ. 各学部にキャリアマトリックスを配布し個別の指導計画にキャリア発達の領域についての評価欄を設けその要素をとり入れた計画を立てることができた。(○) ウ. 保護者向け講演会は、1 回実施することができた。施設と保護者間での積極的な意見交換が行われて成果は大きかった。次年度にも実施したい。広報誌については、3 回発行し、キャリア教育に関する記事や施設情報を提供した。(○) (3) 7 月 20 日～9 月 5 日にかけて緊急対応シミュレーションを実施した。実施マニュアルについて、反省事項は保健部会等で協議した。迅速な対応が必要な部分は、改訂を行い完成することができた。(保健部反省)(◎) (3) 登下校中の災害を含めた緊急時に利用できるハザードマップを作成し、通学バス 7 台に配付した。(総務部)(◎)</p>

府立岸和田支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 センター的機能の充実と安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 地域の支援ニーズに応えるため「地域支援室」の充実を図る。</p> <p>(2) 校務分掌組織の再編強化をすすめる。</p> <p>(3) 人権教育の推進を図る。</p> <p>(4) 安全衛生委員会の活性化を図る。</p> <p>(5) 情報発信の充実</p>	<p>(1) ア 岸和田市、佐野支援、岸和田支援の3者でインクルーシブ教育システム構築に向けての協働研究を進める。 イ リーディングスタッフ、コーディネーターは地域と連携を深め、地域支援に努める。</p> <p>(2) ICTを活用し、校務の効率化、校務の情報化、生徒情報の管理事務の効率化を図る。</p> <p>(3) 体罰防止を含めた人権研修を実施する。</p> <p>(4) 定期職員健診等、産業医とも連携し職員の健康増進にむけての推進を図る。</p> <p>(5) 情報教育部が中心となり、教育実践の成果や日々の様子についてHPで発信する。HPの更新月8回以上で、生徒主体の記事の更新を行う。情報だよりを配布しHPの周知を図る。</p>	<p>(1) ア インクルーシブ教育システム構築に向けての研究会議にアドバイザーを招き、年に3回実施する。 イ・居住地における「交流及び共同学習」については、講師を招いて全体研修を実施し、校内での共通理解を図る。 学校教育自己診断(教員)「3. 交流教育・・・」の項目において、肯定的評価を昨年度より10%高める。 (2) 学校教育自己診断(教員)において「学校は授業について十分な話し合い…」を10%高める。</p> <p>(3) 体罰防止を含めた人権研修を年に2回行う。</p> <p>(4) 健診後のアンケートで肯定評価80%</p> <p>(5) HPの更新を月8回以上。HPへの訪問数を前年度比110%以上。</p>	<p>(1) ア、「共に学び・深まる集団作り」をテーマに、岸和田市立朝陽小学校を拠点にして協働研究推進会議を全7回(うち3回はアドバイザーを招く)実施した。(◎) イ. インクルーシブ教育システムと居住地校における交流及び共同学習について、講師を招き、全体研修(公開)を実施した。学校教育自己診断(教員)「3. 学校は交流及び共同学習・・・」は、昨年度77% 今年度は88%であった。 (○)</p> <p>(2) 全ての学部において、紙ベースの出席簿からデータ入力形式の出席簿に変更し、事務作業軽減へつなげることができた。しかし、「学校は授業についての十分な話し合いができる時間を確保できている」のアンケート項目では肯定的評価1%増に留まり、目標の達成にはならなかった。(△)</p> <p>(3) 6月と1月に人権研修を実施した。肯定的評価「理解は深まった」は88%、97%であった。(○)</p> <p>(4) 採血時に注射した部分が内出血のために腫れると教員が複数いた。アンケートを提出した職員の人数が少なく、有為な肯定率にはならなかった。(△)</p> <p>(5) 学校ホームページの更新回数月平均9回以上となり目標を上回ることができた。また、情報の授業と連携して生徒の書いた記事をホームページに掲載を行った。情報便りを教員と保護者に配布することで、ホームページの閲覧者数も増加し、前年度比118%となり目標を達成した。(◎)</p>
---	---	--	---	---